


- ・考古研究室
- ・美術文化財研究室
- ・建築文化財研究室
- ・無形文化財研究室
- ・保存科学研究室
- ・復元技術研究室
- ・自然文化財研究室
- ・国際交流
- ・国立慶州文化財研究所
- ・国立扶余文化財研究所
- ・国立伽耶文化財研究所
- ・国立羅州文化財研究所
- ・国立中原文化財研究所
- ・文化財保存科学センター
- ・デジタルアーカイブ



 ごあいさつ

 National Research Institute
of Cultural Heritage
Kim Young-Won

Welcome to our website!

今日は、国家や地域の境界がなくなり、地球がひとつになりつつある世界化の時代だと言えましょう。しかしながら、逆に文化の普遍性と反対の概念である地域性や特殊性は、過去よりもいっそう光を増します。そうした点で、文化遺産の重要性はこれまでに高く高まっていると言えるでしょう。21世紀において、文化は国家競争力の核心的要素に位置づけられ、その革新が文化遺産なのです。

文化遺産の持つ価値が、日増しに関心を集めている状況であるにもかかわらず、文化遺産の保存環境は、日ごとに悪化しています。開発事業の増加、環境汚染などによる文化財の損壊とともに、崇礼門火災事件に見られる人災など、文化遺産は、決して安全でない環境におかれています。

1969年、文化財管理局文化財研究室として発足した国立文化財研究所は、文化財の保存と活用のための調査、研究、開発業務を主な任務とし、考古学、美術史学、建築会社学、民俗学、保存科学など、文化財関連分野350人余りの職員が働く国家機関としては唯一の文化遺産関連総合研究機関です。

代表的な事業には、中国の東北工程をはじめとする歴史問題への対応と、アイデンティティ探究の一環として、ロシア沿海州地域における渤海遺跡の発掘、民族アイデンティティ回復を目的とした北朝鮮との開城満月台の共同発掘、輝かしい先人の文化の復活と文化財活用政策の一環として進行中の慶州皇龍寺址復元研究プロジェクトなどが挙げられます。

2008年には、地下1階、地上4階7,808㎡(2,362坪)規模の文化財保存科学センターが竣工し、保存のための新たな研究開発を進めています。

常に現状に甘んじることなく、21世紀を迎え、同研究所は文化財の調査研究と保存分野の先端化・科学化を達成するため、調査研究技法の開発、先端施設の確保に努める一方、活発な国際交流によって韓国文化の優秀性と位相の向上を率先して行っていきます。

文化遺産の保存と活用は、単なる該当分野の専門家や、これを管理する公務員の役割にとどまるものではありません。文化遺産の保存と活用は、生活の質を高めるための選択であり、これにかかわる人々すべての理解こそが最優先です。文化遺産に対する国民の皆様の理解・関心こそが、文化遺産を保存するための最も強固な力、資産なのです。

ウェブサイトに訪問して下さった方々が、文化財研究所がこれまでの成果をさらに高め、世界中の研究所を目指し励む姿を、温かく見守ってくださいますよう、願ってやみません。

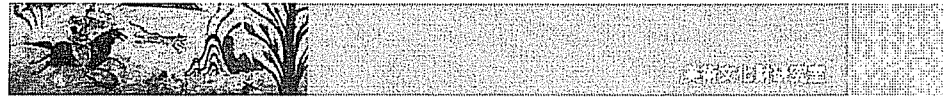

国立文化財研究所長

- ・ 研究所の紹介
- ・ 考古研究室


紹介

美術史の分野別研究
 歴史記録遺物の研究
 伝統文様原形記録化
 朝鮮王談調査
 南北文化財学術調査
 国外所在韓国文化財
 東洋美術様式の比較研究
 原文情報


- ・ 建築文化財研究室
- ・ 無形文化財研究室
- ・ 保存科学研究室
- ・ 復元技術研究室
- ・ 自然文化財研究室
- ・ 国際交流
- ・ 国立慶州文化財研究所
- ・ 国立扶余文化財研究所
- ・ 国立加那文化財研究所
- ・ 国立麗州文化財研究所
- ・ 国立中原文化財研究所
- ・ 文化財保存科学センター
- ・ デジタル アーカイブ



 国外所在韓国文化財

日本をはじめ、20か国の所在が把握されている韓国文化財7万5000件余りのうち、韓国(朝鮮)室が設けられている51の主要博物館所蔵品を対象に調査を行い、図録を発刊・普及している。また保存状態が劣悪な所蔵品に対しては保存処理費を支援するなど、韓国伝統文化広報の機会を提供している。


 国外所在韓国文化財の調査

1984年以降の収集資料にもつき、国外所在の韓国文化財関連目録集4件を刊行している。また1992年からは、日本や米国など20か国にある韓国文化財の現地調査を行っている。
 2000年現在において、フランスのギメ東洋美術館をはじめ、6か国40機関の現地調査を行い、図録式の調査報告書12件を刊行した。また海外現地において韓国の文化広報を誘導・宣揚するため、国外博物館所蔵の韓国遺物に対する保存処理費用の支援を行っている。
 2007年までに、米国フィラデルフィア美術館所蔵花鳥図など、2か国5機関の5点に対する支援を行った。


 国外所在韓国文化財の調査風景

-フランスギメ東洋美術館での調査風景
 -米国ブルックリン博物館所蔵韓国文化財の調査風景
 -ロシア東洋芸術博物館所蔵韓国文化財の調査風景


 研究成果

『海外所在韓国文化財目録』1984
 『海外所在韓国文化財目録』1986
 『日本所在韓国典籍目録』1991
 『海外所在韓国文化財目録』1993
 『小川敬吉調査文化財資料』1994
 『日本所在文化財目録』1995
 『日本所在韓国仏画図録-京都・奈良』1998
 『フランス国立ギメ東洋博物館所蔵韓国文化財』1999
 『モスクワ国立東洋博物館所蔵韓国文化財』2002
 『ロシアビョートル大帯人類学民族博物館所蔵韓国文化財』2004
 『米国ボストン美術館所蔵韓国文化財』2004
 『日本東京国立博物館所蔵小倉コレクション韓国文化財』2005
 『日本東京美術館所蔵韓国文化財』2006
 『フランスセーブル国立陶磁博物館所蔵韓国文化財』2006
 『米国ブルックリン美術館所蔵韓国文化財』2006
 『ドイツケルン東アジア博物館所蔵韓国文化財』2007
 『日本早稲田大学坪内博士記念演劇博物館所蔵韓国文化財』2008